宗像

毎月十五日発行
発行所
宗像大社
宗像会
〒811-35 福岡県宗像郡玄海町
電話 0940-62-1311代
定価 一年送料共 1000円

神具、装束
結婚式場用品
福岡店 福岡市博多区東公園二-三一（〒八一二）電話福岡（〇九二）六五一-九四五六番
本社 京都市下京区油小路六条北入（〒六〇〇）電話京都（〇七五）三四一-三三四一代表 三四三-三三四一番
株式会社 井筒

葦津嘉之宮司急逝

―享年五十四才―

去る十一月八日午前十一時五十五分、葦津嘉之宮司が急逝され、二十一日午後二時より、宗像大社・宗像大社氏子会の合同葬が、福岡市中央区古小烏の積善社・福岡斎場に於て、葦津宮司を慕う千名余の人々の参列のもと、厳かながらしめやかに斎行された。

国際的感覚を持った神職としても行動されてきた宮司は、七日、名古屋市の熱田神宮で開かれた、神道国際友好会幹事会に出席、その帰途の八日午前、名古屋発福岡行の全日空機内で心臓発作のため倒れられ、九州大学附属病院で手当が尽されたが、急性心不全のため、五十四歳の若さで帰らぬ人となられた。

葦津宮司は、昭和七年八月二十三日、筥崎宮の社家・葦津家の世嗣として生まれられた。時あたかも激動の昭和の幕明けの時代であった。県立福岡高校から福岡学芸大学社会学科へ進まれたが、父祖代々の祠職の道を志され、国学院大学文学部神道専修科に入学、昭和三十一年に卒業、同年四月神宮司庁出仕を拝命、三十四年六月宗像大社権祢宜として赴任、四十七年十一月宮司に就任された。

宮司在職十四年、そして昭和三十四年に当大社奉職以来、宗像大神の御神徳発揚に、神域の護持・拡張にと休む間もなく東奔西走し続けられた。この間、第三次沖ノ島祭祀遺跡学術調査、昭和の大造営、第二宮・第三宮の再興、神宝館の建設、儀式殿の建設とその秀れた手腕と行動力により、次々に御造営を進められた功績は極めて多大である。

一方何よりも気さくで飾るところのない大らかな性格と、多趣味な人柄が、参拝者を始め多くの人々に敬われ、親しまれてきた。スポーツも万能で休日にはボート操縦、登山、アイススケートなどを楽しまれていた。また趣味も多方面に亘り、特にメカニズムに強く、ラジコン飛行機の製作や自動車の構造に、二輪車や カメラの操作に、二輪車と接し、国際感覚を身につけるべきであるとの信念から、神道国際友好会に積極的に参加、昭和五十一年の第二次欧州宗教事情視察団に副団長として参加、昭和五十四年には、第三次欧州宗教事情視察団々長として役割を果した。出土した十二万点にも及ぶ神宝類は、当大社のみならず、我国の貴重な遺産であると、その永久保存・展示のため神宝館を建設された。神宝類は現在も修復が進められている。

（神道の国際友好化推進）

神職は国際的視野を広め、世界のあらゆる宗教者や自動車の構造に、二輪車や カメラの操作に、二輪車と接し、国際感覚を身につけるべきであるとの信念から、神道国際友好会に積極的に参加、昭和五十一年の第二次欧州宗教事情視察団に副団長として参加、昭和五十四年には、第三次欧州宗教事情視察団々長として参加、パチカンにてローマ法王ヨハネ・パウロ二世の表敬訪問、スイス、ジュネーブの世界教会本部における、プロテスタント指導者等との懇談会、西ドイツ、ボン大学日本文化研究所への神道書籍の贈呈など国際友好を深められた。

（交通安全の啓蒙運動）

宗像大社は交通安全の神様として、全国の人々より厚い崇敬を受けているが、交通安全の啓蒙を常に心掛けられ、福岡県交通安全JR委員会委員として、また福岡県小型船舶安全協会々長として、社会問題でもある交通安全を、あらゆる機会に訴えられた。

（文化財の護持）

宗像大社には、古い時代から今日に到るまで、地方史としてだけではなく、日本の古代史研究資料として も重要な、考古・文献・美術工芸など一級の資料が宝物として所蔵されている。これらの資料を保存し、一般の人々に理解してもらうべく世に出すのが、神社に課せられた大きな使命の一つでもあると提唱されてきた。まず最初に着手されたのが、興聖寺所蔵の一筆一切経の重要文化財指定（昭和三十四年）と保存事業である。当大社は三十七年に改めて管理団体に指定され、四十年より、全四千三百三十一巻の修復を行っているが、終了までにはあと五年を残すまでにはあとなった。更には辺津宮本殿・拝殿の修復工事、平安時代から江戸時代までの三千点に及ぶ古文書の修復にも着手された。当大社所蔵文書の内、中世文書は重要文化財に指定されており、これらの文書の整理・復製・「宗像大社文書集」刊行を目的として、五十九年に「宗像大社文書編纂刊行委員会」が結成され、現在も事業は着々と進行中である。

追悼の辞

宗像大社責任役員
宗像大社氏子会副会長
葬儀委員長
河野幸人

謹んで宗像大社宮司、葦津嘉之氏の御霊前に告別の辞を申し上げます。

あなたは去る十一月八日の正午、公務出張中に病に倒れられ、忽然としてこの世を去られました。青天の霹靂ともいうべきこの訃報は、いち早く宗像郡内にも衝撃となって伝わり、郡民は茫然として深い悲しみに包まれております。

いま、御霊前に額づき、御遺影を拝していますと、ついこの間まで、親しくお言葉をかけていただいたお元気で、明るく闊達なあなたのお姿が鮮やかに眼前に浮び、万感胸に迫って心は千々に乱れるばかりでございます。

あなたは昭和三十四年六月、伊勢神宮より宗像大社に赴任されましたが、当時の社会状勢は未だ戦後混迷の時期にあり、神社経営もまた多難の時代でありましたが、この苦境の中であなたはひたすら神社の発展のために尽瘁されました。

昭和四十一年、三十四才の若さで権宮司に就任されましたが、時あたかも郷土宗像御出身の、故出光佐三翁を会長に仰ぐ、宗像大社復興期成会による昭和大造営事業が開始され、出光会参向を仰いで盛大に執り行われました遷宮奉祝祭の日の、あなたの晴れやかなお顔が今も懐しく思い出されます。翌昭和四十七年十一月、久保宮司の御退任に伴い、衆望を担ってあなたは大社宮司に就任されました。

宗像大社宮司に就任されましたが、その後も伊勢神宮の古材をいただいて建設された第二宮・第三宮の御造営や、海の正倉院といわれる沖ノ島より出土した国宝・重要文化財約十二万点に及ぶ古代祭祀品をはじめ、貴重な文化財を収蔵展示する神宝館の建設、また靖国御心中を拝察いたしますと、誠に痛恨の極みでございます。

いま宗像大社の境内には三千鉢に及ぶ菊の花が飾られ、西日本随一といわれる第十六回菊花展が今年も盛大に開催されています。そして馥郁として香る色とりどりの菊の花に包まれて、感謝を申し上げますと共に、御遺族の皆様方に衷心よりお悔みを申し上げ、追悼の辞といたします。

昭和六十一年十一月二十一日

葦津宮司さん、どうか安らかにお眠り下さい。そして御遺族の皆様をはじめ私達をお守り お導き下さい。

ここに宗像大社並びに宗像大社氏子会を代表して、生前にあなたから賜わった御高恩と、永年に亘り神社の発展に御尽力されました御労苦に対し、心からの、感謝を申し上げますと共に、御遺族の皆様方に衷心よりお悔みを申し上げ、追悼の辞といたします。

昭和六十一年十一月二十一日

宗像大社責任役員
宗像大社氏子会副会長
葬儀委員長
河野幸人

謹んで宗像大社宮司、葦津嘉之氏の御霊前に告別の辞を申し上げます。

あなたは去る十一月八日の正午、公務出張中に病に倒れられ、忽然としてこの世を去られました。青天の霹靂ともいうべきこの訃報は、いち早く宗像郡内にも衝撃となって伝わり、郡民は茫然として深い悲しみに包まれております。

いま、御霊前に額づき、御遺影を拝していますと、ついこの間まで、親しくお言葉をかけていただいたお元気で、明るく闊達なあなたのお姿が鮮やかに眼前に浮び、万感胸に迫って心は千々に乱れるばかりでございます。

あなたは昭和三十四年六月、伊勢神宮より宗像大社に赴任されましたが、当時の社会状勢は未だ戦後混迷の時期にあり、神社経営もまた多難の時代でありましたが、この苦境の中であなたはひたすら神社の発展のために尽瘁されました。

昭和四十一年、三十四才の若さで権宮司に就任されましたが、時あたかも郷土宗像御出身の、故出光佐三翁を会長に仰ぐ、宗像大社復興期成会による昭和大造営事業が開始され、出光会長の御信任厚かったあなたは、故久保輝雄宮司の良き補佐役として、またこの事業推進の中心的存在として、その卓越した手腕により、対外折衝や全国募金に奔走され、美事にこの大事業を達成されました。重要文化財指定の辺津宮本殿・拝殿の御修理をはじめ、勅使館・斎館・祈願殿などの建設や、境内の拡張整備により宗像大社はその古い御由緒と高い御神格に相応しい荘厳な神域を復興することが出来ました。昭和四十六年の秋、畏くも勅使の御参向を仰いで盛大に執り行われました遷宮奉祝祭の日の、あなたの晴れやかなお顔が今も懐しく思い出されます。翌昭和四十七年十一月、久保宮司の御退任に伴い、衆望を担ってあなたは大社宮司に就任されました。

宗像大社宮司に就任されましたが、その後も伊勢神宮の古材をいただいて建設された第二宮・第三宮の御造営や、海の正倉院といわれる沖ノ島より出土した国宝・重要文化財約十二万点に及ぶ古代祭祀品をはじめ、貴重な文化財を収蔵展示する神宝館の建設、また靖国神社より移築した儀式殿の建設、更に沖津宮・中津宮の整備など次々に御造営を進められ、宗像大社は一段と荘厳さを増し、御神徳は愈々高く発揚されるに至りました。あなたの御功績は永い宗像大社の歴史の中でも燦然として輝き、永く後世に語り継がれることでありましょう。

まだ〳〵これからも神社界をはじめ、各方面での御活躍が期待されながら、志半ばして病に斃れられ、愛する御家族の皆様を残されて卒然として身罷られたお言葉を交すことも出来なくなってしまいました。天命とはいえ私達はただ〳〵天を仰いで慟哭するばかりです。しかしながら私達はいたづらに悲しみの時を過すことは出来ません。この悲しみに打ち勝って、生前あなたがよく口にされていました神郡宗像の伝統と誇りをもって、神社職員の皆さん達と手を携え、宗像大社氏子会一丸となって御神徳の発揚に邁進いたしたいと存じます。

このことが神社を思い、宗像を愛されたあなたの御遺志に報いる最大の道であると信じます。

葦津宮司さん、どうか安らかにお眠り下さい。そして御遺族の皆様をはじめ私達をお守り お導き下さい。

ここに宗像大社並びに宗像大社氏子会を代表して、生前にあなたから賜わった御高恩と、永年に亘り神社の発展に御尽力されました御労苦に対し、心からの、感謝を申し上げますと共に、御遺族の皆様方に衷心よりお悔みを申し上げ、追悼の辞といたします。

昭和六十一年十一月二十一日

葦津嘉之宮司のみたま安かれと祈る

各界より寄せられた弔辞（敬称略）

神社本庁

総長　黒神直久

福岡県神社庁副庁長、宗像大社宮司故葦津嘉之君の葬儀が斎行されるに当り、謹んで御霊前に追悼の辞を捧げます。

先般君が名古屋での会議に元気で出席され、愛用のカメラを用いながら空港に向われたことはお聞きしておりましたが、突然の訃報に接し深い驚きと悲しみを禁ずることができませんでした。今御霊前にぬかずき万感ともども胸に去来し言うべき言葉を知りませんが、ここに心から永遠のお別れを申し上げます。

君はその人となり温厚篤実しかも識見にすぐれ、昭和三十三年東京の乃木神社に奉職され、その後伊勢の神宮奉仕を経て、昭和三十四年宗像に帰られ、昭和四十一年宗像大社権宮司、昭和四十七年宗像大社宮司に就任されてより今日に至るまで、二十八年間に亘り宗像大社の御神徳の宣揚とその維持運営にも、最先端技術をいち早く取り入れるなど斯界の指導に尽された御功績は、誠に偉大なものがあります。

この間神社庁副庁長・理事・教化部長として又、神社本庁評議員としてその枢機に参画されると共に「世界に目を向けよ」と、国際的神道人としての御活躍は今もなお、亀鑑と仰ぐべきものがあります。

本年は本庁設立四十周年を迎え新庁舎の建設もあと一歩という秋、君の識見と力量に大きな期待を申し上げていた矢先、神社人の驚きも御家族のお嘆きも、今は只君の御冥福を祈るだけであります。

今御生前に於ける数々の御功績を偲びつつ、深甚なる哀悼と心からなる敬慕の念を捧げ、弔辞といたします。

宗像大社葬（積善社斎場）

福岡県神社庁

庁長　髙千穂有英

謹んで宗像大社宮司、福岡県神社庁副庁長、神職身分一級、浄階、葦津嘉之殿の御霊前に追悼の詞を捧げます。

あなたの急逝された訃報に接しましたのは、私が神社本庁の会議に出席して帰福しました当日の、十一月八日午後一時五十分福岡空港到着の時で御座居ます。

私は驚きと悲しみでしばし呆然となり、自分の耳を疑いました。何度も問い質しましたが、それはどうしても信じられない悲しい事実でありました。

あなたと御会いしました最後の日は、前々日の六日で神社庁での神宮大麻頒布祭、表彰式であなたは、あんなに元気に御挨拶をしていただきましたのに、全く信じられません。

今御霊前にぬかづき副庁長として神社庁々務を一緒にしてまいりました数々のことが、胸に去来し深い悲しみで申し上ぐ可き言葉も御座居ませんが、茲に永遠のお別れを申しのべねばなりません。

思えばあなたは筥崎宮累代祀職の社家に生まれ、国学院神道専修科を卒えられ、神職として実に三十一年の永きに亘り神明に御奉仕され、御神徳の宣揚に尽瘁されました。その人となりは常に誠実温厚、実践力と私心なき奉仕の精神に徹せられ、己を律すること、極めて固くしかも識見にすぐれ神道人の儀範でもありました。

神社界にありましては、昭和五十二年四月以来福岡県神社庁宗像支部長・理事に就任され、昭和五十八年四月より福岡県神社庁副庁長の要職につかれ今日迄、御活躍尽力されて参りました。更に神社本庁参与、評議員、神宮評議員、神道政治連盟福岡県本部副会長等の要職を歴任され、斯道発展に貢献されました数々の御功績は多大でありました。

よって神社本庁より浄階、一級への昇進追贈に預かられました次第でもあります。

社会関係にありては、国学院大学協議員をはじめ文化財建造物保存技術協会評議員、宗像ロータリークラブ特別代表、福岡県小型船舶安全協会々長等二十余の役職に就任され、社会奉仕活動にも多方面に亘り活躍され、私達神社人は等しく敬意を表するところでありました。

これから神社界にとっては、あなたに期待するところ誠に大なる折、不帰の客となられましたことは、痛恨の極みに堪えません。あなたの徳望と御功績は私達の心の中に永遠に消えることのなく、語り継がれることでしょう。

今茲に、お別れの日を迎え哀悼、痛惜の情を新たにし、御霊前に向かい御生前の数々の御功績を偲びつつ心からなる感謝の念を捧げて謹んで弔辞と致します。

宗像大社復興期成会

出光興産株式会社

会長　大和勝

本日茲に、故葦津嘉之殿の葬儀に臨み謹んでご霊前に哀悼の辞を申し上げます。

去る十一月八日、餘りにも突然の悲しいお知らせに只々茫然自失し、悲しみに言葉もありませんでした。つい先日、出光美術館の開館二十周年パーティーでお目にかかった際のお元気なお姿が目に浮び、未だに幽明境を異にされたとは信じられない思いで御座居ます。

葦津さん、あなたは昭和三十四年荒廃した宗像大社の建て直しの為着任され、以来二十七年大社の為生涯を捧げられました。宗像大社復興期成会初代会長であった故出光佐三店主は、常々「宗像大社は国民の祖神ともいうべき格別の由緒のある尊貴なお社であり、この大社を往年のお姿にお戻しするのが私の終生の悲願である。」と申しておりましたが、あなたはこの出光店主の思いを体して宗像大社復興と御神威の顕彰に全力を注がれました。中でも昭和大造営の大事業を昭和四十六年に完成させ、畏くもご勅使をお迎えして、四百年ぶりという盛大な遷宮祭の斎行ができましたことは、特筆すべきことであります。更に第二宮・第三宮の復興、神宝館の新設、儀式殿の完成等大社発展の為に献身的なご努力を盡されました。

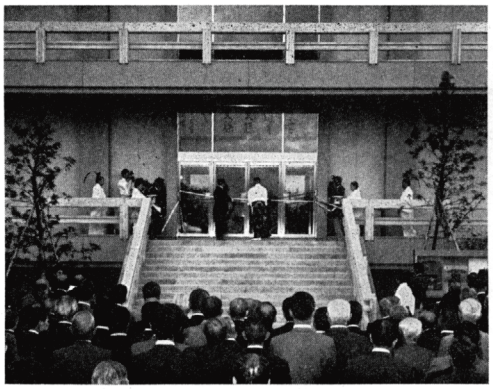
現在、宗像大社の社頭が全国からの参拝者によってにぎわい国民の厚い崇敬を受けておられる尊いお姿は、誠に感激に堪えません。これらは宗像大神のご神慮と多数の人々の奉賛の賜物とは申せ、その中にあって、率先事業をすすめられたあなたの功績の大なることは、衆目の一致するところであります。あなたがなされたお仕事は、宗像大社の歴史に永遠に輝くことでありましょう。

私はあなたに何度もお会いしてまいりましたが、その度びに日本の国柄や歴史に対するあなたの立派な識見に教えられることが多く、心から深い尊敬の念をもっておりました。今茲にあなたを失ったことは私どもは勿論、大社にとっても誠に痛恨の極みであり哀惜の情に堪えません。

私ども復興期成会一同は、あなたのご遺徳を偲び、心を新たに宗像大社ご神徳の発揚に一層の努力を致す所存であります。

葦津さん、どうぞ心安らかにお眠り下さい。

出光佐三会長と談笑される　葦津宮司　昭51・5・19



神宝館も完成しテープカットをする宮司　昭55・11・8

ご逝去をいたみ謹んで哀悼の意を表します

昭和六十一年十一月二十一日

宗像大社責任役員会
宗像大社氏子総代会
宗像大社沖中両宮奉賛会
宗像大社職員一同

葦津嘉之氏を偲んで

◇友よりの哀悼のことば◇　（敬称略）

衆議院議員　山崎　拓

宗像大社宮司葦津嘉之さんの御霊前に謹んでお別れの言葉を申しあげます。

去る十一月八日、私は余りにも突然の悲しい知らせに茫然とし、言葉もありませんでした。

葦津さん、あなたは五年前、順天堂大学附属病院で心臓の手術を受けられて以来、すっかり元気になられ、前にも増して公私共に忙しい毎日を送っておられました。私はそのお姿を拝見するたびに超人的な回復力に感嘆し、安心しきっておりました。

まさか、このようなことになるとは、今もって信じることができません。

葦津さん。あなたとの出会いは、宗像大社の大造営の直前でした。当時福岡県議会議員であった私は、出光興産の遠山寿一君の紹介であなたに初めてお目にかかりました。忘れもしません、それは、昭和四十四年八月の暑い日の午後、宗像大社の仮社務所でのことでした。そこであなたから造営資金を募金するための免税措置に関することで陳情をうけました。

同時にあなたは初対面の私に親しみをこめて宗像大社の歴史、神格の高さ、文化財としての価値、大造営の必要性等を熱っぽく話されました。

その当時私は、来たるべき総選挙に出馬することを決意しておりましたので、そのことをあなたに打ち明けましたところ、あなたはお互いに助けあっていこうと誓ってくれました。

しかし、私はその年の十二月の総選挙で無念の敗北を喫して、あなたの期待を裏切ってしまいました。

その後、あなたは挫折感にひしがれていた私を心から励まし、引き続き募金の免税措置のための官庁折衝の仕事をまかせてくれました。

「あなたはこの仕事で、必ず立ち直ることができます。神様が必ず助けます」と言って私を叱咤激励してくれました。加えて私の後援者有志を集め私の政治活動を支えるための百円募金を提唱し、実行に移してくれました。本当に物心両面にわたる温かい支援をしてくれたのです。

そして昭和四十六年、あなたは宗像大社の造営を無事成し遂げられ、私も翌年末の総選挙で所期の目的を達することができました。私の初当選を、あなたはわがことのように喜んでくれました。その後、あなたは実の兄のように常に温かく私を見守ってくれていました。

葦津さん、あなたを知って十七年の間、思い起こせば、申しあげたいことは山ほどあります。しかし、まだ気持の整理がつきません。

今思えば、あなたは五十四年という短い人生を駆け足で生きてこられました。

その間、あなたが成し遂げられた偉業は昭和の大造営をはじめ、沖ノ島の文化財の発掘調査など、宗像大社のみならず、神社界、地域社会に対する貢献は数えればきりがありません。

あなたの残された遺産の数々は、多くの人の心の中にいつまでも生き続けていくでしょう。

通夜の祭壇で、葦津さんの遺影に最後のお別れをした時、私はかけがいのない人を失った深い悲しみに次の句を詠みました。

「白菊の　闇に浮かびて　君逝きぬ」

あなたの御霊が安らかに眠らんことを、心からお祈りし、お別れの言葉といたします。

大宮巌鼓神社　宮司　髙山　巌

葦津さん、久し振りにお会い出来たのに悲しい対面となってしまいました。

去る八日夕、あなたの訃報が衝撃的に伝えられた時には鉄槌を加えられたような思いでした。

私共は世に実年といわれる時期を迎え、これから大いに交流を増して充実の時を過したいと思っていた矢先に、あなたが忽然と他界されるとは余りにも痛恨事であります。奥様や御子息様の胸中は如何ばかりかとお慰めの言葉もありません。

顧りみますと社家に生まれた誼でしょうか。東京の乃木神社に於て始めてお会いして以来、何となく意気投合し、あなたの豊かな見識と親しみ深いお人柄は良き友人として、又畏敬する師として大きな支えでありました。

伊勢神宮に共に奉職の機にも恵まれ、僚友広瀬・上野・秦・大宮君等のよき面々とめぐり会い、若き血を燃やしたことも懐しい思い出です。又あなたのすすめで、宗教視察の旅に参加し共にヨーロッパを駆け巡り、異国情緒を味わったことも語り草です。壮健を以て任じたあなたが数年前、思いもかけぬ大病で入院加療の折、広瀬君とお見舞すると病院のベットの上で弱りきっていると思いきや、病状を淡々と説明し、みじんも不安感をのぞかせないその立派さに、私共は反って教えられ感動しながら帰ったことも今尚記憶に鮮明です。

葦津さん、あなたが宗像大社宮司として重責を担い、息忙の日々の中で残された足跡は際立ってみえます。私共はそのあなたに、やがて神社界のよき指導者たるべき人と大きな期待をして居りましたが、世の中には何ともはかないむなしい限りです。あなたの輝かしい実像が、追憶のベールの中に包まれてしまうことになろうとは、考えてもいないことでした。ゆくりなくも今は幽冥境を異に致しましたが、与えて頂いた友情と御交誼には心から感謝して居ります。

葦津さん、本当に有難う。どうぞ安らかに御眠り下さい。そして、御家族や神社界の行手を在りし日に在りし如く御照覧下さい。名残りはつきませんが拙い繰言を御霊前に捧げ、お別れと致します。

出光佐三復興期成会長に第二宮・第三宮の説明をされる宮司　昭51・5・19

宗像ロータリークラブ　会長　清永明格

葦津嘉之君

あなたは、さよならも言わず、手もあげず一陣の晩秋の風のように駆け去りました。のこされた者は、なす術もないままここに立っております。

かなしみも吹きすぎる風のようで、涙もおいつきません。急ぎ足のあなたをおいかけるように、おわかれのごあいさつを申し上げます。

思いがけない別離の運命は人の世の常と思い定めてはいても、今度ばかりは私を打ちのめしました。あなたのいない今、無心に咲く季節の花ばかりが残りました。あなたと私とは十五年もの歳月、ロータリーの同志として行をともにし祖国と世界の幸せに思いを重ねて参りました。宗像ロータリークラブの創設はあなたの思想の具体化であり二人で歩いた十五年の仕上げでもありました。

あなたは後輩の私を船長に押してみずからは「水先案内人」として船首に立たれました。どんな困難な航海にも、しゃんと顔をあげて前を見つづけたあなたに、私はどんなに励まされたことでしょう。

あなたが、宗像大社の発展に示された溢れんばかりの情熱と知恵の一部をおかりしてわがクラブもこれから新しい旅立ちを始める矢先の事でした。

国際ロータリーに加盟する認証状伝達式典を終えて新しいクラブを世界の友情のために船出させたばかりではありませんか。

あの日、わたしたちは新しいクラブの出発のお祝いの席で、あなたの帰りを待っておりました。

とうとうあなたは、わたしたちの席には帰られなかった。

水先案内のあなたに先立たれて、わたしたちは途方にくれた子どものように、しぐれのまちをあなたのお宅へと歩きました。

みんな黙って歩きました。たそがれのしぐれのまちをきっと誰も忘れることはないでしょう。

季節は帰らず、あなたは遠く旅立たれました。あとにのこされたわたしたちはあなたの志を道標べとして船をこぎつづけるつもりです。

それは

地域社会にわたしたちの「志」をいかすこと

一人一人の業を通してこの世に尽すこと

世界に心を開いて新しい地球につらなること

わたしたちはあなたのおみちびきを忘れません。

一同を代表してお別れを申し上げます。

さようなら、そしてありがとうございました。どうぞ安らかにお眠りください。

バチカン市国でヨハネ・パウロⅡ世ローマ法王を表敬訪問された葦津宮司　昭54.2.28

宗像大社歌会 俳句作品集（二八五）

秋風を讃（ほめ）えしみあれ神事に就く　津屋崎　井浦　良介

我が余生今日を楽しむ秋の旅　田　熊　安部　ゆき

福岡中央　力丸玄風

ひたすらの坐禅に月の刻きざむ

津屋崎　西住喜三郎

三、思想、研究の自由。

四、抑圧された生計からの解放。

五、粛清、人民裁判などの禁止、人民の生命安全の保障。（五まで要約）

六、民族精神を強化拡大し、歴史、文化を守り、倫理道徳を崇拝し、婚姻の自由を維持し、家庭の安らかさを増進します。人民の言論、出版、集会、結社、居住、信仰の自由を保障します。一切の制限、迫害の恐怖を取り除き、人民が生活方式を選択できる自由を回復させます。

という六項目で、以上は一般民衆を対象にしたものである。

この原稿を書いていたころ、朝日新聞は「中国ミグは海軍機」という見出しで、ソウル二七日発の外電を伝えている。「国防省当局は二七日朝、さる二四日韓国領空に侵入して清州空軍基地に着陸した中国のミグ戦闘機の操縦士は、中国海軍航空部隊第五師団十五連隊一大隊一編隊長の鄭葉田（二六）と発表した。調べによると鄭操縦士は中国湖北省武漢の出身、二四日午後二時二〇分ごろ中国山東半島の莱山飛行場を離陸、同半島沿岸の文登地域上空を哨戒飛行中に韓国の領空に侵入した。黄海上空を哨戒中の韓国機が出動したところ両翼を左右に振り、敵対行為の意思がないことを示したため韓国中部の清州空軍基地に誘導着陸させた。鄭操縦士は台湾へ亡命の意思を示している」（一九八六、一〇、二八日付）というものである。

一九八〇年二月三日に福岡市海の中道に漂着した海漂器の中に「中央空軍将兵決起亡命優待規定（中華民国六十八年二月修正公布）

（続）海漂器～台湾の叫び 3

いしいただし

三大保障まで述べたが、六大自由とは、

一、強制収容所の解散、労働改造の廃止と労働者の職業選択の自由、労働組合の基本的権利の保障。

二、農業合作社、集団農場食糧配給制などの廃止、農地や収穫物の私有化。

三、思想、研究の自由。

四、抑圧された生計からの解放。

五、粛清、人民裁判などの禁止、人民の生命安全の保障。（五まで要約）

六、民族精神を強化拡大し、歴史、文化を守り、倫理道徳を崇拝し、婚姻の自由を維持し、家庭の安らかさを増進します。人民の言論、出版、集会、結社、居住、信仰の自由を保障します。一切の制限、迫害の恐怖を取り除き、人民が生活方式を選択できる自由を回復させます。

という六項目で、以上は一般民衆を対象にしたものである。

この原稿を書いていたころ、朝日新聞は「中国ミグは海軍機」という見出しで、ソウル二七日発の外電を伝えている。「国防省当局は二七日朝、さる二四日韓国領空に侵入して清州空軍基地に誘導着陸させた。鄭操縦士は台湾へ亡命の意思を示している」（一九八六、一〇、二八日付）というものである。

一九八〇年二月三日に福岡市海の中道に漂着した海漂器の中に「中央空軍将兵決起亡命優待規定（中華民国六十八年二月修正公布）

中共空军官兵起义来归优待规定

中華民國六十八年（1979）二月修订颁布

一、中華民國政府对中共空军官兵起义来归者，一律不究既往，保障生命安全，绝对尊重人格，享有国军官兵同等待遇，并给予下列优待。

㈠凡起义来归之中共空军官兵，按功晋升官职。

㈡凡由驾驶或拘捕限碍反共起义者，送交国军，或径查明属实，均予重奖。

㈢反共起义来归者，依其自由意愿参加国军，或辅导其就业，升学。

二、中共空军官、士勤人员，策动飞机来归，可以得到同样的奖励和优待。

三、中共空军官、士勤人员由地面或海上起义来归者，保证得到同样的优待。

四、凡驾机或策动起义来归者，依下列标准发给奖金：

△轰六型，奖黄金八千两。

△歼七型，奖黄金七千两。

△轰五型，强五型，三叉戟喷气空运机，奖黄金六千两。

△歼六型，四螺旋桨发动机，奖黄金五千两。

△歼五型，奖黄金三千两。

△直升机，奖黄金五百两至一千两。

△双螺旋桨发动机，奖黄金五百两。

假如其他机种起义来归者，比照类似机型奖励标准发给奖金。

五、多座机同乘人员以平均分配为原则，对策动起义有功人员，另增发优厚奖金。

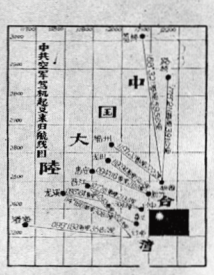
六、起义来归注格记号：

㈠接近台湾西海岸时，尽快减低速度，放下起落架及襟翼，保持飘浮下降。

㈡如为轰炸机型，应自动开启炸弹舱门。

㈢病有外伤弹药，应在海峡上空自行投弃海上。

㈣遇有国军飞机时，应猛烈摇动机翼，夜间显示航行灯。着陆灯。



社務日誌抄

十月一日～三日　宗像大社秋季大祭

十月一日　織幡神社祭

釧路出光会十名参拝

十月三日　日本銀行監事・小田村四郎氏参拝

十月五日　田島校区婦人会境内清掃奉仕

縫殿神社祭

十月十二日　的原神社祭

主基地方風俗舞保存会研修旅行

十月十三日　玄海町消防団秋季大祭警備反省会

十月十四日　出光興産㈱門司油槽所宗像神社秋祭

十月十五日　月次祭

生長の家福岡支部献木

十月十七日　献茶祭

表千家々元而妙斎千宗左奉納・出光興産㈱社長出光昭介氏・表千家門円会福岡県支部長永倉三郎氏参列

十月十九日　空手演武奉納

宗像地区商工青年部百名菊花展示ハウス建設作業奉仕

宗像大社杯争奪宗像地区ソフトボール大会

十月二十日　八幡大学大東流合気柔術クラブ参拝

十月二十一日　福岡県鹽光連盟記者外四名参拝

十月二十二日　赤間西小学校遠足

十月二十五日　太宰府天満宮氏子会参拝

十月二十六日　天皇陛下御在位六十年奉祝福岡県民の集い・於福岡市国際センター、宇都宮権宮司以下神職五名・巫女三名参加

第十六回西日本菊花大会菊花搬入開始

十月二十七日　糸島郡加布里校区老人クラブ参拝

神宝館拝観

十月二十九日　神興東小学校遠足

十月三十一日　第十六回西日本菊花大会審査

古式祭の御案内

古式祭とは、今年最後の収穫感謝祭のことであります。

氏神様に対して一年の神恩に感謝して今年の収穫物を捧げ、忌火で焚いた御飯を神様にお供えし、氏子の人達が一緒にいただく神事であります。

この行事は宮中に於いては、陛下が神嘉殿に於いて新嘗祭を行っておられるのと同じ性質のものです。

この古式祭は又「延命招福」の集いともいわれますが、氏神様と共にこの一年間の喜びを分ちあうといった『神人和楽』を共にする年に一度の集会であることに、このお祭の意味があります。

八百年以上の伝統を持つ宗像大社の古式祭には、特にお菓子と呼ばれる、九年母・菱餅等で作られた特殊神饌や、江口の浜よりあがるゲバサモという海藻をお供えして、お座を催すのが古来からのしきたりなのです。又、くじが行われ、御神像や神盃が授与されます。

是非とも皆様方おさそい合せの上御参拝下さいますよう、御案内申し上げます。

記

一、日　時　十二月十五日（月曜日）

祭　典　午前六時

お　座　午前六時三〇分～午前九時

一、場　所　祭典　本殿

お　座　清明殿

一、お座料　（一名分）

白米一升又は金五〇〇円

海漂器～台湾の叫び

積のあった人には別に厚い報酬が与えられます。

㈠、台湾の西海岸に接近した時には、速度を速やかに落とし、燃料タンクを捨てて、フラップを落ろして、ゆっくりと下降して下さい。

㈡、もしも爆撃機なら爆撃倉を開けて下さい。

㈢、もしもミサイルを搭載していたら、海峡上空で海に捨てて下さい。

四、国軍の航空機に出会った時には、激しく翼を揺すって下さい。夜間には、航行灯と着陸灯をつけて下さい。

注、土井英明氏の「台湾海峡電波、伝単戦」（軍事研究、一九八四年・七月号）に、同じ伝単の内容が有ったので引用させてもらった。

注、殲はMiG・ミグ型戦闘機、ヘリコプター　五〇〇～一〇〇〇

五、複座機に同乗している人員は平均して分配するを原則とし、特に決起に功績のあった人には別に厚い報酬が与えられます。

㈠、台湾の西海岸に接近した時には、速度を速やかに落とし、燃料タンクを捨てて、フラップを落ろして、ゆっくりと下降して下さい。

㈡、もしも爆撃機なら爆撃倉を開けて下さい。

㈢、もしもミサイルを搭載していたら、海峡上空で海に捨てて下さい。

轟五型（II28）強五型（MiG19改）　七〇〇〇

殲五型（MiG17）　六〇〇〇

殲六型（MiG19）　五〇〇〇

殲七型（MiG21）　八〇〇〇

轟六型（TU16）　三〇〇〇

黄金両

第三〇四回 宗像大社歌会詠草

中村吾郎選

毎月末日〆切

福　間　清原　紹代

行商の媼が魚を背割りする手は潮風に黒く光れり

（評）魚の背割りする手の一点に焦点を絞り、行商の媼のたくましい生きざまが象徴され、躍動する。

原　町　中村　幸

蟋蟀のひとつ啼きゐる裏畑に椎茸干さむ風よく通る

（評）作歌の呼吸を呑みこんだとでも言うべきか。椎茸を干さんとする意識の中に蟋蟀の一つ声が澄む。

鐘　崎　安永　久子

長病みて久々詣る父母の墓めぐりに栗の爆ぜし殼散る

（評）季節感に心情が溶け合って佳作。上句が少し説明的であり、今一歩の柔軟な表現が望ましい。

東　郷　藤崎　辰子

やどり木の一かたまりが青々しおがたまの木は枯れて了へり

田　熊　鷲津かつ代

おもひでに耽くる窓辺の明るみて二十三夜のおそき月の出

大　島　中村さつき

岸壁に積み重ねたる蛸壺にびっしりと稚牡蛎（ちがき）白く乾けり

原　町　八波　五月

敬老会果てて帰れば吾子よりの暖かき毛布が届きてをりぬ

田　熊　力丸　一郎

山深き里にも名だたる故事ありて維新の志士の銅像たてり

吉　留　白木うめの

稲の穂の出たる棚田を吹き下る山よりの風秋になる風

自由ケ丘　後藤君代

果樹植ゑて豊になりし故里は家建て替ふるところの多し

大　島　目原　節子

朝浜を今日も一声啼きわたる五位鷺の声静寂に消ゆ

深　田　中野　節子

紅葉せる櫻の枝に房をなす御くじほぐせり手馴れし巫女ら

鐘　崎　岩瀬　辰夫

米莽まで後三年の欲に生きてゲートボールに爽やかな日々

本　町　広渡一寿輔

せがまれて放生会詣でに孫の供又せがまれて帰り肩車

田　久　立花　勇雄

老大の修了記念に戴きし湯呑み手にして亀井氏を悼む

池　田　小田しめの

看とりなくひとり戦野に絶えし兄呼びたき想い五十年を経つ

宮　田　片山　朔子

孫よ汝が傍へに眠れば夜半にふと襲う悲しみもうすらぎてゆく

名古屋　野崎　傳三

かろやかに斎苑の落葉言たてて片辺に寄する朝の北風

通り堂　木梨ヨシノ

紺碧の空に飛び発つ飛行機は日にかがやきてゆうゆうと見ゆ

福岡中央山下しづえ

神宝館の慈愛にみてるあみだ様やさしきお顔に又振り返る

池　田　小田　イセ

二番札所登る参道険しきに蔽の枯竹杖にと取りぬ

武　丸　立石ろせ乃

台風逸れて秋晴の空爽やかなり池の廻りを蜻蛉むれ飛ぶ

田　熊　今村　重刀

裁判所検察庁も國策の名のもとにしてもろくやみたり

南　郷　片山　碧村

朽ち行くも余命に強き老梅が全枝に花つけ庭は明るし

徳　重　石松や寿子

籾がらの山を背にして日向ぼこ猫は四ツ足伸ばして眠る